

発達心理学

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成30年度から開講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、人間の生涯発達を機軸に捉え、胎児期～若い成人期までの発達に関する心理的事実の理解、加えて発達上に特別な心理的支援ニーズが必要な場合の基本的考え方について理解できるようにする。また同時に、発達の原理、法則、理論に関しても概説的な解説を行うことで、学生自身や身近な人の理解、社会や文化、更に歴史的状況への視野の広がりへの関心の拡大を考える上での基本を理解することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯発達とは
2	乳児が初めて出会う世界
3	愛着理論と母子分離不安
4	幼児の世界観
5	人生を決定する児童期の人間関係
6	児童期における発達上の問題
7	思春期挫折の危機とアパシー
8	青年期の人間関係
9	働き盛りの精神衛生
10	燃え尽き症候群と自殺念慮
11	加齢現象と認知症
12	認知症高齢者の心理的特徴
13	長寿を全うするための健康
14	臨床発達心理学の視点 アイデンティティ拡散
15	臨床発達心理学の視点 発達障害

【履修上の注意事項】

人間の生涯発達について、事前・事後の学習を積み重ねること。

【評価方法】

1. 受験資格の確保 (2/3以上の出席：学則参照)
2. 期末試験受験による評価 (60点以上：学則参照)
3. 試験結果 100点満点で評価
*再試験は実施しない。

【テキスト】

『ヒューマン・ディベロップメント』青柳肇・野田満編著 ナカニシヤ出版

【参考文献】

『発達心理学ハンドブック』東・繁多・田島編集 福村出版 1996年『心理学基礎事典』上里監修 至文堂 2002年 *その他、講義過程において紹介する

教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学校の内外における「教育」という営みを歴史的、思想的観点からみることを通して教育の本質と意義について理解する。具体的には、教育の理念と制度、教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識を習得し、学校現場における教育実践に求められる教育の原理を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	わが国における教育歴史と思想（3）今日
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は協同による能動的で活動性を高める授業であり、到達目標は、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得することをねらいとしている。また授業は3つのセクションで行う。第1セクションは発表グループによるパワーポイントを使ったReport課題の説明である。第2セクションは、Report課題（予習）についてのグループ討論（話し合い学習）を行う。第3セクションは、授業の振り返りである。まとめのプレゼンシートを配布するので復習することも大切です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育行政論へのいざない
2	協同学習についての説明
3	LTD学習を考える「主体的に学ぶ授業のすすめ」
4	1章「教育行政と教育行政学」教科書7～13頁3行目
5	2章「教育行政を動かす組織」17～24頁
6	3章「教育を受ける権利の保障」31～40頁1行目
7	3章「教育を受ける権利の保障」40頁2行～46頁
8	4章「学校の管理と経営」47～54頁
9	4章「開かれた学校づくり」55～62頁
10	7章「教育活動を支える諸条件」91～96頁
11	7章「教育活動を支える諸条件」97～101頁8行目
12	9章「教職員の養成・採用・研修と身分保障」119～125頁
13	9章「教員の採用選考・研修・身分保障等」125～132頁
14	10章「教育課程行政と教科書」1と2節
15	10章「教育課程行政と教科書」3と4節

【履修上の注意事項】

レポート(手書き不可)は授業当日に集める。後で出しても受け付けない(提出してないことになる)。

授業の振り返りは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない

授業中は教室を勝手に出ない(トイレは事前に済ませておく)。

欠席の場合は、友達にレポートを預け提出を頼む。

授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする

【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する(追再試はしないので再履修となる)。

特に出欠状況とレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

【テキスト】

勝野正章・藤本典裕編「教育行政学(改定版)」学文社

【参考文献】

教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①教育課程の意義とわが国における歴史的変遷について説明することができる。
- ②今次の学習指導要領の特徴を横軸（諸外国との比較）と縦軸（歴史的変遷）により説明することができる。
- ③学習指導案を作成することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政（教育課程の三層構造）
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教育課程の構造と類型
10	諸外国の教育課程（アメリカ、イギリス、フィンランド）
11	小・中・高等学校における教育課程
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

保健体育科教育法 I

担当教員 則元 志郎

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教科教育学は教員免許に養成に関わる重要な授業科目であり、本科目はそのうちの保健体育科教育を扱う。保健体育科教育は基礎的内容であり、主に保健体育科の目的・内容、教育課程、社会変化と学校体育、運動の特性論、教授－学習過程論、学習指導要領、授業計画の立て方・考え方、体育評価論などについて学習する。到達目標として、保健体育科教育法について保健体育教員の立場から、各論を理解したうえで体育実践を指導できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健体育科教育 総論
2	目的・目標論（保健体育科の目的・目標の変遷と現代的課題）
3	内容論 1（学習指導要領における内容の捉え方）
4	内容論 2（教科内容の基準と系統化）
5	教材論 1（教材と教科内容の関係）
6	教材論 2（教材研究と教材化の視点）
7	運動領域論（学習指導料における運動領域の捉え方）
8	指導方法論（学習としての体育、「めあて学習」の見方・考え方）
9	学習形態論（グループ学習の基本的要素と構成）
10	学習計画論（年間計画、単元計画、指導案の考え方）
11	授業づくり論 1（授業づくりの視点）
12	授業づくり論 2（授業づくりの実際）
13	学習評価論（評価基準と評価内容、指導と評価）
14	教師論（保健体育教師の資質と能力）
15	授業全体の総括

【履修上の注意事項】

授業前に配布した資料（テキスト）を読み、次回の内容について予習しておくこと。さらに、授業後には復習も行うこと。

【評価方法】

課題レポート（5回）100%

【テキスト】

授業時にテキストとなる資料を配布する。

【参考文献】

竹田・高橋・岡出編著『体育科教育学の探求』大修館書店、文部科学省『学習指導要領 保健体育編』学校体育研究同志会編『体育実践に新しい風を一教科内容を軸に体育実践を創る一』大修館書店

保健体育科教育法Ⅱ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解し、国民健康の現状と課題を説明できる。
- ②高校生期における保健学習はどのようにあるべきかを説明できる。
- ③高校生期の「心と体を一体としてとらえる」とした教科目の中身を理解し、模擬授業を実践できる。

【授業の展開計画】

保健体育科の教科目標である「心と体を一体としてとらえる」という内容を正しく理解する。また、高校生期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進めたい。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（食事、運動、休養とヘルスプロモーションの意味）
3	高等学校保健体育科教師としての健康哲学
4	高等学校学習指導要領保健体育の教科目と指導案
5	高校生期の発育の特徴
6	高校生期の発達の特徴
7	精神の健康
8	保健科教育の授業づくり
9	課題レポート（自分が受けた高校生期の保健科教育）バズセッションと全体討議
10	安全教育・安全管理・救急法
11	授業書方式による「環境と健康」
12	授業書方式による「環境と食品の保健」
13	授業書方式による「労働と健康」
14	飲酒・喫煙・薬物乱用防止
15	思春期と健康、結婚生活

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度（60%）

【テキスト】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店
 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 文部科学省（平成21年）

【参考文献】

現代保健学習・指導事典 保健科教材研究会 編 大修館書店
 高等学校学習指導要領 文部科学省（平成21年）

特別活動論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

小中高等学校の学習指導要領を中心に特別活動の歴史の変遷をたどり、教育課程上の位置づけを理解できる。そのうえで特別活動の目標と内容、実践上の諸課題について論じることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校教育と特別活動Ⅰ—教育課程における位置づけ
2	学校教育と特別活動Ⅱ—特別活動の基本的性格
3	特別活動の歴史Ⅰ—戦前における課外活動
4	特別活動の歴史Ⅱ—学習指導要領にみる戦後の変遷
5	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅰ—目標の分析・考察
6	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅱ—学級活動の特質と活動内容
7	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅲ—児童会・生徒会活動の特質と活動内容
8	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅳ—学校行事の特質と活動内容
9	特別活動の展開Ⅰ—学校経営案、特別活動計画案、学級活動計画案の検討
10	特別活動の展開Ⅱ—学級活動学習指導案の作成
11	特別活動の展開Ⅲ—学級活動学習指導案の作成及び検討
12	特別活動の展開Ⅳ—児童会・生徒会活動の事例検討
13	特別活動の展開Ⅴ—学校行事の事例検討
14	特別活動と他の教育活動との関連
15	特別活動の実践

【履修上の注意事項】

学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

レポート40%、期末試験60%

【テキスト】

広岡義之編著『新しい特別活動—理論と実践』ミネルヴァ書房、2015年

【参考文献】

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は協同による能動的で活動性を高める授業であり、到達目標は、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得することをねらいとしている。授業前半は、発表グループによるパワーポイントを使ったReport課題（予習）の説明とテーマのグループ討論を行う。授業後半は、質問を投げかけるなど双方向型の講義形式で行う。またプレゼンシートを配布するので復習することも大切です。

【授業の展開計画】

教育方法論は予習が必要です。教科書には設問3つと考えてみようの問がいくつかあります。その回答をレポートにまとめて授業に臨みます。レポートの書き方は1回目授業で説明します。レポートをまとめる際は、小中学校を振り返って自分の意見や考えを書いた方がいいです。書く内容が少ない場合は、教科書、他の本、インターネットで調べたことを書いてもいいですが、インターネット内容をコピーして貼り付けることはしない。

週	授 業 の 内 容
1	教育方法論へのいざない
2	「いじめについて考える」（教科書212～216頁）
3	「学校事故を考える」（教科書87～94頁）
4	「学校給食について考える」（教科書208～211頁）
5	「学級担任になったA先生の不安」（教科書34～41頁）
6	「担任と児童との関係を考える」（教科書58～68頁）
7	「不登校を考える」（教科書95～103頁）
8	指導案作成の説明
9	指導案作成の実践（発表グループで作成する）
10	指導案の発表（各グループで作成した指導案を発表する）
11	「学級活動と道徳の違い」（教科書120～124頁）
12	「道徳教育と道徳の時間の違い」（教科書150～155頁）
13	「生徒指導を考える」（教科書175～180頁）
14	「体罰を考える」（教科書193～198頁）
15	「授業中の規律指導」（教科書217～221頁）

【履修上の注意事項】

出席確認で携帯を忘れた人は、川野に連絡する。レポート（手書き不可）は授業当日に集める。後で出しても受け付けない。授業アンケートは、各項目にきちんと回答する。

授業中は、携帯をみたり他の事をしない。授業中は教室を勝手に出ない（トイレは事前に済ませておく）。

欠席の場合は、友達にレポートを預けて当日に提出を頼むか、事前に川野に提出する。授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする。

【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する（追試はしないので再履修となる）。

特に出欠状況とレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

【テキスト】

「教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力」昭和堂

【参考文献】

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいのか説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート等20%、期末試験80%により評価する

【テキスト】

特にテキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

「学校カウンセリング」国分康孝編 日本評論社

教職実践演習（中・高）

担当教員 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
 - (1) 事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
 - (2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
 - (3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
 - (1) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
 - (2) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
 - (3) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
 - (1) 生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
 - (2) 事例研究(不登校といじめ問題等)
 - (3) 事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
 - (1) スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (2) スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (3) スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (4) フィールド学習の振り返りと評価
- VI 総括

【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度 (30%)、②ポートフォリオを通しての評価 (50%)、外部講師による評価 (20%)

【テキスト】

【参考文献】

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 高等学校教諭1種免許状取得希望者

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 未定、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考 中学校教諭1種免許状取得希望者

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、中学校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、3週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導―体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

中学校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

保健体育科教育法Ⅲ

担当教員 堤 公一

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のねらいは、中学校保健体育教員として必要な実践的指導力を養うことである。そのための到達目標は、以下の通りである。

- 1 中学校保健体育科の授業構成・学習指導・授業分析・評価の基礎を理解することができる。
- 2 学習指導要領において取り上げられている運動領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「ダンス」「武道」についての授業づくり・授業研究の方法を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）
2	学習指導要領保健体育科の変遷
3	運動の特性と体育授業の目的・内容
4	体育授業の学習過程・学習形態
5	体育授業の学習環境・教材開発
6	体育授業と評価
7	指導計画の作成①学習指導案
8	指導計画の作成②学習カード
9	体づくり運動の授業づくり
10	器械運動の授業づくり
11	陸上競技・水泳の授業づくり
12	球技の授業づくり
13	武道・ダンスの授業づくり
14	体育理論の授業づくり
15	体育授業のリフレクション

【履修上の注意事項】

授業回数の2/3以上の出席がない者は、試験を受験することができない。教室での講義だけではなく、授業づくりの演習として模擬授業を行うので、運動のできる服装および屋外屋内シューズを準備すること。授業づくりの演習では授業づくり担当者を割り振るので、その役割をきちんと果たすこと。

授業以外の学習として、授業前にテキストを読むなどして、各回の予定内容について予習を行うこと。授業後には講義内容についてのリフレクションや整理を行い復習をしておくこと。

【評価方法】

試験50%、レポート（学習指導案・学習カード・模擬授業実践・リフレクションを含む）50%

【テキスト】

高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著『新版 体育科教育学入門』大修館書店（2010）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（2008）

【参考文献】

北尾倫彦監修『平成24年版観点別学習状況の評価基規準と判定基準中学校保健体育』図書文化（2012）

宇土正彦・高島稔・永島惇正・高橋健夫編著『新訂 体育科教育法講義』大修館書店（2000）

保健体育科教育法Ⅳ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康とは何か、時代と共に健康に対する考えがどのように変遷したのかについて説明できる。
- ②現代社会の健康状況を把握し、中学校期における保健学習の進め方について説明できる。
- ③中学生期の「心と体を一体としてとらえる」とした教科目標を理解し、模擬授業を实践できる。

【授業の展開計画】

保健体育科の教科目標である「心と体を一体としてとらえる」という内容を正しく理解する。また、中学生にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進めたい。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康学概論
3	中学校保健体育科教師としての健康哲学
4	中学校学習指導要領保健体育の教科目標と指導案
5	中学生期の発育の特徴
6	中学生期の発達の特徴
7	健康と環境
8	良い保健科の授業と悪い保健科の授業
9	保健科教育教材内容の構造化
10	課題レポート（自分が受けた中学校期の保健科教育）バズセッションと全体討議
11	仮説実験授業、授業書方式と保健科教育
12	健康と環境
13	保健科教育と安全教育
14	保健科教育と喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
15	感染症予防と慢性疾患の予防

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度等（60%）

【テキスト】

新版 保健の授業づくり入門 森昭三 和唐正勝 編著 大修館書店
新しい体育の授業づくり 勝亦紘一 家田重晴 著 大日本図書

【参考文献】

仮説実験授業のABC 板倉聖宣 著 仮説者
中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省（平成20年）

道徳教育論

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

道徳教育の本質および歴史を踏まえ今日の学校および社会における道徳教育のあり方を理解した上で、「道徳」授業者としての実践的力をもつことができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会と道徳
2	道徳教育の本質
3	慣習的道徳と反省道徳
4	道徳を教えるということ
5	道徳性 1 (道徳教育の原則からみた道徳性)
6	道徳性 2 (コールバーグの道徳性発達理論)
7	日本における道徳教育の史的展開
8	学校における道徳教育の現状 (新基本法と学習指導要領)
9	道徳教育のための授業論 (道徳教育における「道徳」授業の位置づけ)
10	道徳教育のための教材論 (教材「手品師」に対する批評)
11	徳目主義の問題点
12	道徳授業の指導計画
13	道徳授業の実践と評価
14	道徳授業例
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。参加的態度で臨むこと。
教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験 (70%)、小レポート (30%) を評価の対象とする。

【テキスト】

『中学校学習指導要領解説―道徳編―』／文部科学省

『小学校学習指導要領解説―道徳編―』／文部科学省

【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教師に求められる資質能力は、教職という仕事に対する使命感と責任感、専門的知識、児童生徒に対する教育的愛情、豊かな人間性と教養及びこれらを基盤とした実践的指導力です。本授業では教師の仕事について具体的に考えるとともに、将来、教える目指す学生の皆さんに教職の魅力とやり甲斐について伝えていきたいと考えています。”

【授業の展開計画】

教職論は予習が必要です。教科書の各章の終わりに問1～問3があります。レポート課題は、下の内容に書いています。レポートの書き方は1回目授業で説明します。レポートをまとめる際は、小中学校を振り返って自分の意見や考えを書いた方がいいです。書く内容が少ない場合は、教科書、他の本、インターネットで調べたことを書いてもいいですが、コピーして貼り付けることはしないようにします。またまとめのプレゼンシートを配布するので、復習することも大切です。

週	授 業 の 内 容
1	教職論の授業説明
2	1章「学校を考える」(教科書1～18頁) レポート課題は問1。
3	2章「いじめについて考える」(教科書87～90頁) レポート課題は問2。
4	3章「不登校について考える」(教科書91～93頁) レポート課題は問3。
5	5章「授業を考える」(教科書62～77頁) レポート課題は問3。
6	6章「生徒指導を考える」(教科書78～93頁) レポート課題は問1。
7	7章「特別支援教育を考える」(教科書94～101頁) レポート課題は問1。
8	8章「道徳教育を考える」(教科書102～116頁) レポート課題は問1。
9	9章「特別活動を考える」(教科書117～125頁) レポート課題は問1。
10	10章「総合的な学習の時間を考える」(教科書126～140頁) レポート課題は問1。
11	11章「学級経営を考える」(教科書141～153頁) レポート課題は問1。
12	12章「学校事故を考える」(教科書154～165頁) レポート課題は問1。
13	4章「教育評価を考える」(教科書48～61頁) レポート課題は問1。
14	13章「学校・保護者・地域の連携を考える」(166～174頁) レポート課題は問2。
15	12章「危機管理を考える」(教科書157～165頁) レポート課題は問2。

【履修上の注意事項】

レポート(手書き不可)は授業当日に集める。後で出しても受け付けない(提出してないことになる)。

授業の振り返りは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない

授業中は教室を勝手に出ない(トイレは事前に済ませておく)。

欠席の場合は、友達にレポートを預け提出を頼む。

授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする

【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する(追再試はしないので再履修となる)。

特に出欠状況とレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

【テキスト】

川野司著『実践！学校教育入門』昭和堂

【参考文献】

生徒指導・進路指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「生徒指導」の基本的理念、原理原則を学び、今日山積する生徒指導上の課題に対処できる実践的能力の基礎となる教師としてのものの見方、考え方ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	機能概念としての生徒指導
3	生徒指導の歴史的変遷
4	生徒指導の実際 ①非行・問題行動
5	生徒指導の実際 ②いじめ・不登校
6	生徒理解のための方法と技術
7	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
8	教育課程と生徒指導 ①各教科と生徒指導
9	教育課程と生徒指導 ②道徳と生徒指導
10	教育課程と生徒指導 ③特別活動と生徒指導
11	進路指導の定義と論点
12	学校における進路指導の新たな展開
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業へは参加的態度で臨むこと。
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

【評価方法】

課題レポート（40%）＋学期末試験（60%）

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論—「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版。

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。